

週間市場レポート (2020年9月21日~9月25日)

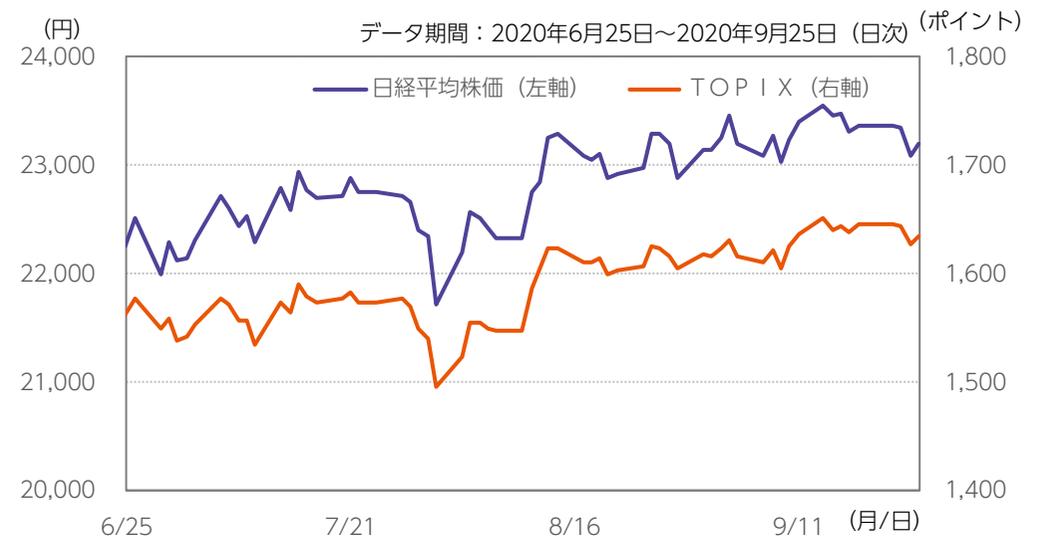
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2020/9/18	先週末 2020/9/25	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		23,360.30	23,204.62	▲ 0.67 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,646.42	1,634.23	▲ 0.74 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		27,657.42	27,173.96	▲ 1.75 ↓
S&P500種指数		3,319.47	3,298.46	▲ 0.63 ↓
ユーロ・ストックス50指数		3,283.69	3,137.06	▲ 4.47 ↓
S&P/ASX300指数		5,851.42	5,941.04	1.53 ↑
上海総合指数		3,338.09	3,219.42	▲ 3.56 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)※		890.57	856.95	▲ 3.77 ↓
東証REIT指数		1,694.01	1,735.17	2.43 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		671.89	655.80	▲ 2.39 ↓
ASX300 REIT 指数		1,299.20	1,306.00	0.52 ↑
グローバルREIT (除く日本)※		158.76	154.35	▲ 2.78 ↓
日本10年国債 (%)		0.015	0.011	▲ 0.004 ↓
米国10年国債 (%)		0.694	0.654	▲ 0.039 ↓
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.485	▲ 0.529	▲ 0.044 ↓
英国10年国債 (%)		0.183	0.189	0.006 ↑
ドル/円		104.57	105.58	0.97 ↑
ユーロ/円		123.83	122.88	▲ 0.77 ↓
英ポンド/円		135.08	134.59	▲ 0.36 ↓
豪ドル/円		76.23	74.24	▲ 2.61 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,160.97	2,177.84	0.78 ↑
WTI原油先物 (ドル)		41.11	40.25	▲ 2.09 ↓
CRB 指数		151.54	148.36	▲ 2.10 ↓
アレリアンMLP指数		657.97	601.17	▲ 8.63 ↓

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で小幅に下落となりました。欧米において新型コロナウイルスの感染が再拡大していることなどを背景に、欧米の株式相場が大幅下落した流れを受け、4連休明けは下落となりました。週末は、米国株式市場において調整が続いていたハイテク株などが買い戻され、国内株式も上昇となったものの、週間では前週末比で小幅に下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。欧米での感染再拡大を受け、世界景気の先行き不透明感などから相対的に安全資産とされる債券は買いが優勢となりました（利回りは低下）。週末は、日経平均株価の上昇を受け、投資家のリスク選好姿勢が高まったことから、売りが優勢となり（利回りは上昇）、週間では横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は前週末比で下落となりました。感染再拡大や追加経済対策の協議が難航していることなどから、景気の先行き不透明感が強まり、週初は下落となりました。週末は、良好な米住宅指標の結果を受け、高値警戒感からこれまで調整が続いていたハイテク株を中心に買いが入り上昇となったものの、週間では下落となりました。



4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。半期末を控え、国内輸入企業による円売り米ドル買いが進んだことや、米国の新規失業保険申請件数の増加を受けた雇用回復の鈍化懸念から、手元流動性確保のための米ドル買いが優勢となりました。対ユーロは、低調な経済指標を受け、欧州の景気回復の遅れが意識され、円買いユーロ売りが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大などを受けた景気先行き不透明感の高まりなどを背景に、日米両市場ともに前週末比で下落となりました。

足元では世界的なハイテク株式調整への不安がやや後退しているようです。しかし、欧州を中心とした感染再拡大を受けた経済活動の再停滞懸念や、米国で追加経済対策の協議が難航していることなどが、引き続き株価上昇を阻む要因となりそうです。

今週は、米国の9月ISM製造業景況感指数などの重要な経済指標が公表されますが、引き続き堅調な結果となることが予想されます。しかし、足元では雇用回復の鈍化が見られていることなどから、景気の先行き不透明感は根強く、今週の株式市場は、日米両市場ともに上値の重い展開になると予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120 - 762 - 506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>